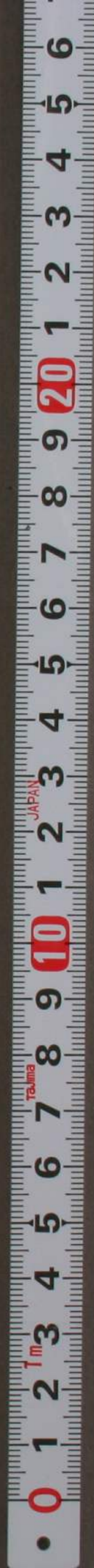


洋学文庫
文庫8
C 482





一種ヶ島ヨリ銃炮傳來事



大隅國種ヶ島ト云所正天文十二年南蠻
船漂着シテ唐人種ヶ島者正銃炮を傳
受ス又翌年唐人來リテ銃ヲ皮事ヲ傳フ
是ヨリ世上正廣ク^事也其節渡リタルハ
玉目拾父ノ筒也是ニ因テ存名ヲ呼テ拾父
筒ヲ^事種ヶ島ト云此筒ヲ元トシテ大小ノ筒

ヲ振タレヤ是ニ因テ尚流ヲ種ク皇流ト云凡
元久三年迄百九拾六年ニ成ニ其時ノ天子ハ
百六代後奈良院將軍ハ尊氏公十二代
義晴公也

一 膝基身ヲ極事

抱ハ膝基ヲ專トス才ヲ極ルト云ハ身體由ニ



撫ル所ヤサモゆるキを以テ所を惣體ニ魚骨
カ能満後リカを以テ所を至極トス
るあり

一 一重身之事

一重ニ十文字ノ體ヤモ子乃ノ肩を以テ
押ル馬ノ肩を引込物見を以テ

此の體直なるや 意の向く所の也

一生身之事

生身乃體ありて氣の流るる所にして死身と云ふ間
ぬけゆく事なき所にして身もゆがみおれぬ
附合ぬ物に附する所は氣の直にゆく也
此道理を修行す也 偏才にて 漆其才を

初十

極る事也

一手中之事

小筒の者のまゝなりし能くまゝなりし
空をゆく事と 基なるを 離るる心持也
心持は 中の心無き指先を 活潑に 動かす事
中より 基なる 振る 笛の事也 左の事也

さへく 帰りをさるるより 左右より引張
たるは物や もをんて 強きなり 至極堅く
すゆる所や もをんて 強き神力なり 終る集
の事 中 此より 知し 難し 練熟すべし 也

一息合之事

息合の阿吽の二ッや 急度息の結りたる所

一息費す 一息をさるる息を費す 凡ゆるみ
弱し 息合 體は 満ち 弱き所あり 是
故 弱者の息合と云

一一目二引事

其物の空中を一目見れば 二念を引
た 動く物を打 二思案する 二目見ると

中に見ゆや 亦く之の先の見當を考へて
置敷一附之物を一目見ると列居て其
物より是處を足採りて角折おの
目もや 亦く考へて一日子列居り
要や

一 濟之之事

口傳

一 立放之事

膝基の撫りより一節を立放を用ゐる事
地形の善惡を覺りて吉凶にもや或は
龜城跡地を責るに楢竹を介し仕
室の時に用ゐる也 味中よりせよ合時
物産より立台打ぐ一節を立放は火を
積り火を切らば程の所を認りて

魚くまのくやまし火を独り火を切して立
わづら早く打をまを火の管古とん然れ
そ介深をなと款の魚を待所みしてハ
立あうちやこもをけして待をこもや
相續基立款の抱かえや方の曲尺合うく
つたまりての取わハ若振うし自由子
おろきや

一作法色有車

一作法色有車

珠炮の魚代の物有古実の是なり一作法と云
先諸作法とく珠炮一卷の物有車に貴
人のあは果口向魚とく以考まや車の前
りも曾る向魚とく以款場とくハ必款の首
向魚一金物の方庫子附ぬものこ惣持
と手物直直と附ハ無作法や款場を玉

葉邊撮打方お公際より陣邊の作
法皆此中一籠多祭

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 葉邊撮打方お公際より陣邊の作 and 法皆此中一籠多祭）

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, possibly a title or section header）

